



笑顔いっぱい かがやく入谷っ子

授 業

子供たちが学校で過ごす中で多くの時間を占めるのは授業です。いい授業を創っていくことは、子供たちの成長に欠かせないものと考えています。日々、一人一人の教員が授業の準備をして、子供たちと向き合っています。また学校全体で、力を高めていくために、同じ方向を向いて進んでいけるようにとテーマを決め、研究を行っています。研究テーマを「自ら学ぶ児童の育成」とし、その姿を引き出していくために必然性のある学びを通して、自ら考えたいくなる授業を目指しています。また、どの学年も課題や問題を解決するために、協同しながら主体的に学ぼうとする児童の姿を目指しています。

日々の授業の中で、子供たちの素晴らしい姿に出会います。先週の授業を紹介いたします。3年生の算数の授業です。「 23×3 」の計算の仕方を考える学習を行っていました。復習問題として、「何十×整数」「何百×整数」の学習をした後、新たな問題場面を捉えて、「 23×3 」の立式をしていました。今までの学習の違いとしてかけられる数の一の位が「0」でないことをみんなで確認し、一人一人が計算の仕方を考えてノートに書いていました。一人で考える時間をとることは、主体的に学習に取り組む上で必要な時間となります。

全体での学びでは、始めに、 $23 + 23 + 23 = 69$ という考えが発表されました。かけ算の意味を理解していますし、既習を活用していて素晴らしい考えです。これは、みんなも納得の計算の仕方でした。次に、困っているという子供の考えを先生が全体に伝えました。「 $2 \times 3 = 6$ 、 $3 \times 3 = 9$ 」と考えたけれど、なんだかおかしいと言

っている子供の考えです。困っている子供の考えを全体に投げかけることで、子供たちは、困っている友達の考えを自分の方に引き寄せて考え始めます。「 2×3 の2は、10をもとにしている」「2は20のこと」「 23 を20と3にわけから、 20×3 にして60、 3×3 で9。合わせて69だ。」と、次々に話し始めていました。子供たちはよく考え、正しいことを言っています。でも、クラスの中に、「 23 を20と3に分けることは分かるけれど、20と3に、それぞれ3をかけることや、その答えを合わせること」が分からなくて困っている子供がいました。この考え方は、分配法則であり、数の操作だけでは抽象度が高く、理解することが難しいものです。そんな中、ある子供が、ノートに書いた図を発表しました。次の図です。

20	20	20	20×3
3	3	3	3×3

この図を見て、分からなくて困っていた子供は大きくうなずき、 23 を20と3にわけ、 $20 \times 3 = 60$ 、 $3 \times 3 = 9$ 、 $60 + 9 = 69$ の計算の仕方の意味を納得していました。子供同士の力が繋がった素晴らしい瞬間でした。その後、友達が発表した図を自分のノートに書き、理解を確かなものにしていました。素晴らしい姿でした。

困り感をもつ友達に寄り添って説明をしようとする事、分からないことを分かるうとして友達の説明を聴くこと、友達の考えを自分の中に取り入れていこうとすること。お互いのことを意識して、繋がり合って学び合っていくことで、お互いが豊かになっていくことに気づいていくこと。授業を通して、子供の素晴らしい動きを見出して、価値づけ、みんなで高まっていけるよう努めていきたいと思ひます。